

鍵の蛇巻き 八坂神社



藁で作った蛇を担いで巡る野神行事

五穀豊穡を祈願し、成人を祝福

「鍵の蛇巻き」は、水を司る農業の守護神・龍を意味する蛇を奉納し、五穀豊穡を祈願する祭りです。また男子の成人(元服)を祝う行事でもあることから、6月第1日曜日開催に改定される前は旧暦の5月5日にあたる6月5日に行われていました。起源は室町時代までさかのぼり、昭和58年には大和の野神行事の一つとして文化庁の「選択無形民俗文化財」に指定されています。

同じ田原本町の今里にも「蛇巻き」はありますが、鍵は主に稲藁で作った雄の蛇を、尻尾を上、頭を下にして収め処に飾る「降り龍」、今里は麦藁で作った雌の蛇を、頭を上、尻尾を下にして飾る「昇り龍」と奉納時の姿が違い、祭りを取り仕切る神社も異なっています。

※1 記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財

蛇の巡行は子どもたちが主役

行事当日は、大人たちが約450束の藁を用い4〜5時間かけ蛇を作成。神主の祈禱の後、250キロ以上ある蛇頭を中学一年生から高校一年生で組織する「頭」が中心となって担ぎ、約13mの尾の部分子どもたちが引き合いながら村内を練り歩きます。

また「新入り」と呼ばれる中学一年生

自分たちで作ったミニチュアの木製農具を入れた「ドサン箱」を約6mの青竹の先にくくり、新築・結婚・出産などがあった家をお祝いしながら巡って、祝儀をもらいます。蛇を収め処に奉納した後は、蛇頭にトビウオやご飯などを盛り付けた「ぼんさんの膳」を載せ、神主が祝詞を奏上します。



蛇を作成する参加者たち

地域全体の祭りとして再始動

「鍵の蛇巻き」は、元来農家が当屋となっていた行っていました。平成15年から班別制となり、令和4年に自治会有志によって「鍵の蛇巻き保存会」が結成されました。令和5年からは行事そのものの趣旨を男子の成人だけでなく、全ての子どもへの健やかな成長を願う行事へと変更。農家・非農家、男女問わず参加できる行事となったことで、地域の結束が一気に深まりました。

これからも伝統を守りつつも新しい考えを取り入れ、地域全体で「鍵の蛇巻き」を受け継いでいきます。

八坂神社
 所 田原本町鍵
開催日
 6月1日(日)

鍵の蛇巻き保存会
 平井明さん、山本吉伸さん
 藤本義則さん、山本さや香さん
 金水美智さんに
 お話しを伺いました。

左から平井さん、山本吉伸さん、藤本さん、山本さや香さんと晃正くん、金水さん